



学校だより

No.523

令和 3年 4月30日
練馬区立田柄第二小学校
校長 岩井 一雄

教育目標 : 元気な子ども ・ 考える子ども ・ 思いやる子ども

田柄用水の今

校長 岩井 一雄

小学生の頃、石神井台の富士街道を自転車で走っていると、いつも気になる場所があった。街道端から少し離れたところにあった、側溝よりはやや深い素掘りの水路である。藪笹に覆われたその水路に水の流れはなく、底の方に僅かばかりの溜まり水があったように記憶している。石神井川沿いなど、周囲の土地より低い場所でもないところに忽然と水路が現れることに、子供心に違和感をもち続けていた。その水路が田柄用水と呼ばれる玉川上水の分水路の一つであり、羽村の多摩川上流の水が延々と引かれ、谷原、土支田、旧グラントハイツ（現光が丘）を貫き、田柄川として石神井川に合流することを知ったのは、中学生になってからのことである。しかし、既に大部分は暗渠化されていると知り、石神井公園駅付近から先の流路を辿ることは困難だった。そこで、一気に今の田柄川緑道まで自転車を進めて、石神井川に合流するところを見に行ったことがある。帰路、日没が迫り心細くはあったが、この地まで多摩川の水を引いた先人の苦労や知恵、優れた技術を体感したことが思い出である。

それから四十余年、田二小に着任して学区域を巡り、今も田柄川緑道を中心として縦横に整然とした道筋と水路敷が残っていることを改めて目にして、田柄用水によって豊かな恵みがもたらされたことが伝わってくる思いがした。

先日、玉川上水から田柄用水が分水される地点は今、どうなっているのか疑問をもち、小平市も訪れてみた。すると、一度は暗渠となった用水が再び開渠となって甦り、水生植物が植えられているところもあった。新しい発見をした気持ちであった。さて、下流のどこまで通水可能なのか、練馬区で復活の可能性はないのか等、これからも探究を続けたい。そして機会あらば「田柄用水の今」を子供たちにも紹介し、自分たちを育んできた郷土に確かに目を向けた上で、未来に向けて歩みを進める、この基本を大切にして教育活動を進めたい。

新年度が始まり、間もなく一か月。子供たちが新しい学年、学級に慣れてきたところで、緊急事態宣言の発出となりました。都・区の感染防止の方針のもと、細心の注意を払いながら教育活動を進めてまいります。子供たちが前に進んでいけるように、引き続き、ご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

5月の生活目標「友達をたくさんつくろう」

小学校の6年間は、心も体も大きく成長する時期です。多くの体験や、様々なチャレンジ、また、人との関わり合いの中で心が大きく成長します。今月の目標は「友達をたくさんつくろう」です。新学期が始まって1ヶ月、今まで仲のよかった友達を引き続き大切にするのはもちろんですが、新しい友達をたくさんつくる5月にしてほしいと願っています。そのためには、自分から声をかけることが大切です。もし、声をかけるのが難しければ、あいさつから始めるのもいいかもしれません。少しの勇気をふりしぼり、自分から声をかけられるよう、ご家庭でも励ましてあげてください。